地域を知り、人々をつなぐ。

地域研究プロジェクト２０１４

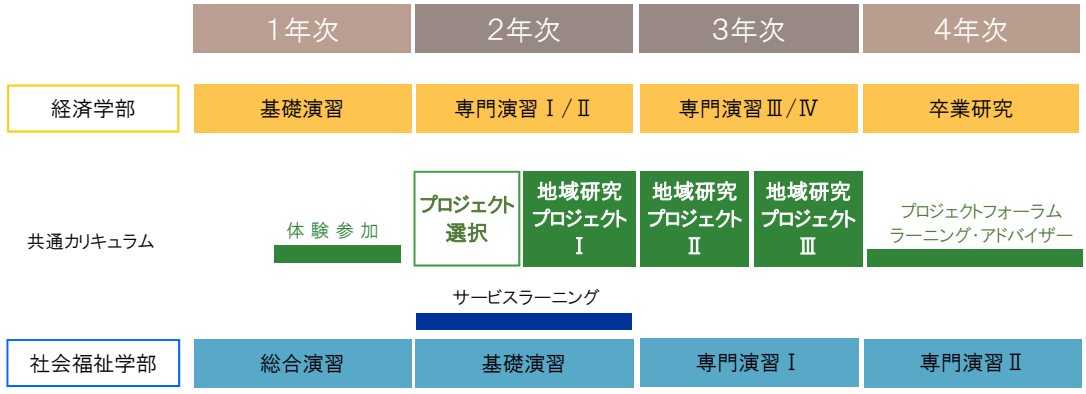
www.n-fukushi.ac.jp/rrpj

地域関係者56人と学生116人が参加した地域研究PJフォーラム・ワークショップの風景

地域を知り、人々をつなぐ。
日本福祉大学の地域協働教育がスタート。

日本福祉大学で、経済学部と社会福祉学部の共通プログラム「地域研究プロジェクト」がスタートしました。
学生は2年次後期から、約1年半にわたってプロジェクトに所属し、知多半島の自治体や地域関係者と連携・協働し、地域振興や、まちづくりにかかわる諸事業を展開しています。

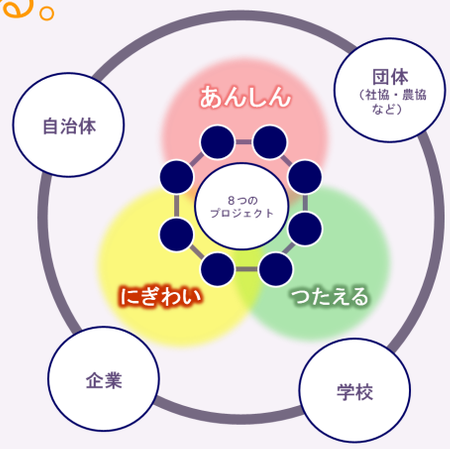
ゼミナール体系と、「地域研究プロジェクト」履修の流れ



- 1年次後期のオリエンテーションにて登録、2年次前期にプロジェクトを選択します。
- プロジェクトⅠ～Ⅲは半期開講、各2単位で、3クールの継続履修を原則としています。
- 3年次に地域関係者を招いた「プロジェクト報告会」を行います。

あんしんや、にぎわいをつくり、つたえる。
共に学び、成長する地域へ。

「地域研究プロジェクト」は、地域貢献をテーマに、「あんしん」「にぎわい」「つたえる」の3つの要素をコンセプトとしています。
指導教員が8つのコモン・プロジェクトを開設し、自治体や地域関係者と協働しながら様々な地域貢献活動を行います。
　地域のニーズに呼応しながら企画・立案が行われ、イベントや調査、共同研究では、領域を超えて他のプロジェクトに参加することができます。これにより、市民協働力(シビック・エンゲージメント)を身に付け、共に学び、成長する地域の担い手を養成します。

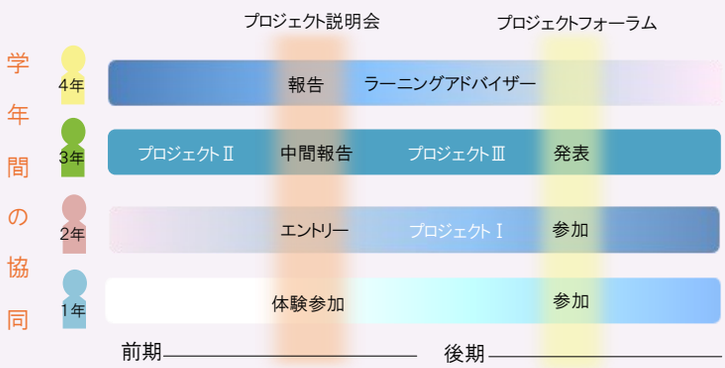


プロジェクトとカウンターパートの概念図

長野県伊那市高遠町高遠城址公園でのフィールド調査

PBL(Project-Based Learning)とは、「課題解決型学習」の方法の一つです。
地域の課題を発見し、教員が視点を与え、以降、支援者として学修活動をサポートします。
学生は、与えられた課題をもとに、主体的に解決手法を模索します。
また、自治体等の地域関係者と組織的に課題に取り組むことにより、
問題発見・解決力、コミュニケーション力、チームワーク力、リーダーシップ、創造性など
「社会人基礎力」に位置付けられる能力の向上に、自ら取り組むことができます。
「地域研究プロジェクト」では、2・3年次の学生を中核としながら、参加者として1年次、
LA(ラーニング・アドバイザー)として4年次の学生が参画し、経験を深めあう「多学年共同学習」を実現しています。

PBLを導入した多学年協同の学びが、
社会人基礎力を育みます。



地域研究プロジェクトフォーラムのワークショップ

看護学部（設置構想中）
経済学部・国際福祉開発学部

2015年、東海キャンパス始動。地域に学ぶ、知の拠点へ。

日本福祉大学は2015年、愛知県東海市に東海キャンパスを開設します。看護学部(設置構想中)を新設すると共に、経済学部、国際福祉開発学部は、全学年同時移転をします。

名鉄・名古屋駅から15分。知多半島の玄関口であり、中部国際空港への結節点となる太田川駅前エリアに誕生します。

地域社会に開かれたキャンパスとして、地域研究プロジェクトをはじめとする地域に根ざした諸活動を展開します。

日本福祉大学は知多半島総合研究所を付置し、知多ソフィアネットワークを形成することにより、知多半島地域の産官学民の連携を推進してきました。

地域研究プロジェクトでは、これらの研究成果をもとに、教育の面から地域と連携し、若者が地域共生の担い手となるような、人材育成の取り組みを行います。

キャンパスが位置する「東海エリア」「美浜エリア」「半田エリア」、中部国際空港を擁する「常滑エリア」を中心に、知多半島5市5町の自治体や地域関係者と協同して多様な活動を展開し、地域経済、地域福祉の発信拠点となることをめざしています。

知多半島全体をフィールドにして自治体や地域関係者とコラボレーション。

地域共生につながる知のネットワークへ。

地域に学び、貢献する人材を育成するために
地域共生につながる
知のネットワークをつくります。

あんしん 領域

社会起業　防災計画　災害支援　自立支援　環境保護　文化伝承　健康増進

- 認知症買い物支援PJ　担当教員：斉藤　雅茂　P.10-11
- VCプロジェクト　担当教員：後藤　順久　P.12-13
- 地域ケアプロジェクト　担当教員：朝日　敏行　P.14-15

つたえる 領域

市場調査　観光資源　発信拠点　特産名産　地産地消

- 健康プロジェクト　担当教員：松井　健　P.16-17
- フードプロジェクト　担当教員：加茂 浩靖　P.18-19
- コミュニティプロジェクト　担当教員：生江　明　P.20-21
  （2012-13年）
- みはまプロジェクト　担当教員：原田 忠直　P.6-7
- はんだプロジェクト　担当教員：鈴木 健司　P.8-9

にぎわい 領域

景観計画　祭礼行事

←大人気。のせる醤油「福だまり」

お酒は二十歳になってから。

知多半島には、江戸時代から酒・酢・味噌・たまり・醤油など醸造の文化が根付いていて、最盛期には200の酒蔵があったそうです。経済学部のプロジェクトから生まれた、のせる醤油「福だまり」の徳吉醸造も「醸す」文化を伝承しています。

半田商工会議所では、知多酒の普及や、
醸-KAMOSU-プロジェクトを推進しています。
http://content.handa-cci.or.jp/kamosu

地域研究プロジェクト 領域概念図・キーワード

3つの領域と各プロジェクトの配置は、ゆるやかに結びついています。

美浜から知多半島へ、そして世界へ「まち」を発信。

山下治夫美浜町長と知多娘。の美浜愛との活動の様子（ご当地グルメコンテストin南知多ビーチランド）

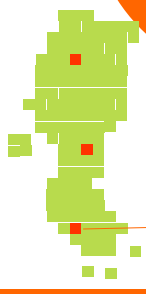
美浜PJでは地元企業や行政・NPO・経済団体と協力して地域の産業や観光の魅力を創り、伝える活動を行っています。これまでの活動は、野間灯台や野間大坊などのランドマークのPRや、グルメコンテスト、観光型婚活ツアーの企画運営、「まち」の魅力を発信するための商品開発を行っています。発信拠点は東海市観光・物産プラザなど知多半島全域。また、中国・香港のフードエキスポへの出展など、ローカルからグローバルな展開をします。

ご当地グルメコンテストin南知多ビーチランドでの活動の様子

みはま PJ

mhm@ml.n-fukushi.ac.jp

「まち」の人々と共に知多半島の魅力を発信します。



活動エリア
美浜町

自分への投資を惜しまない人に限る。

原田忠直先生より一言

自然の資源に恵まれた美浜町。それらを上手く上手く商品化、PRできないかという課題を見つけました。そこで、美浜町役場や知多半島で活躍している社長さんのアドバイスをもらいながら、美浜の特産品を調査することにしました。「みはまっこ」という温室みかんからスイーツをつくりだし、併せて地域のことも紹介することを提案しました。ここから、地域資源をしっかりと把握し、つなぎ合わせることが重要であることを学びました。

プロジェクト･リーダー　松田 陽太

yell

株式会社 知多半島ナビ 取締役 稲葉 憲辰さん

目標を達成するには、踏み込む勇気が大切だと思います。また、周りのひとにサポートしてもらうためには、もっと熱心に取り組む姿勢をみせていく必要もあったのではないかと思います。

Partnership

- 美浜町商工観光課
- NPO法人エンド･ゴール
- 有限会社　ちた屋
- 有限会社　櫻米軒

Schedule

2012年
- 10月　第3回ご当地グルメコンテストへの参加
  美浜町役場の方との定例会議
  NPO法人エンド･ゴールの方との意見交換
- 11月　和菓子屋　櫻米軒へのヒアリング調査
  イベント運営　AtoZの方との企画会議

2013年
- 8月　みはま海遊祭への参加
  有限会社　ちた屋へのインタビュー
- 10月　ご当地グルメコンテストの運営
- 11月　美浜町産業まつりへの参加
  （美浜町の特産物の認知度調査）

ご当地グルメコンテストの準備

ちた屋さんにインタビュー

美浜町役場の方との定例会議

知多半島の銘菓の調査

Project Member

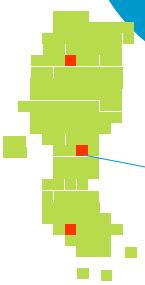
松田陽太(経済学部3年)　横山　衛(経済学部3年)　吉田　僚(経済学部3年)　夏目茉林(経済学部3年)
横山奈々(経済学部3年)　水本貴大(経済学部3年)　宮原大綺(経済学部3年)　乙川裕喜(社会福祉学部3年)
磯貝洋平(経済学部3年)　五十嶋恭兵(経済学部3年)　高瀬大貴(経済学部3年)　柏村拓美(社会福祉学部3年)

“にぎわいのある街”の創出を、調査、企画、体験してみよう。

「第7回はんだ山車まつり」でのミツカン酢を使った変わり寿司弁当販売の様子

はんだ PJ

hnd@ml.n-fukushi.ac.jp



活動エリア
半田市

行う楽しみ、知る楽しみ、解る楽しみ、繋がる楽しみを味わってみる。

動いて、悩んで、失敗して、そして達成して、
それら全てについて楽しめる人、大募集です。

鈴木健司先生より一言

半田プロジェクトでは「にぎわいのある街」をテーマにイベントを調査、企画、分析することを目的としています。2012年度は「第7回はんだ山車まつり」の経済効果を調査・分析しました。今後は半田市を中心として「にぎわい」を創出するイベントに参加します。学外の各種団体が主催する企画や、自分たちで考えた企画を実践しながら調査を行い、チームワークやコミュニケーションといった社会で活躍する“力”を醸成していきます。

「第7回」はんだ山車まつりでのアンケート調査の様子

様々な団体が企画するイベントに参加する中で、地域の人々が協力し合って、街のにぎわいを創っていることを発見しました。私たちも何か地域に貢献できないかと考えて「学生たちの音楽祭」を企画しました。その中で、同じ目的をもって活動するためには、相手との意思疎通を図ることの重要性や難しさを学びました。また、プロジェクトを統括する「リーダーシップ」の必要性や、リーダーを創り出す「フォロワーシップ」の重要性にも気がつくことができました。

プロジェクト・リーダー　関　友紀

yell

特定非営利活動法人 半田市観光協会 松見 直美 さん

「あたりまえ」が「あたりまえ」でなくなる。
学生さんがまちに関わることで、新しい視点を与えてくれます。どうしたら若い人がまちに参加していけるのかを考えているので、もっと声と届けてもらいたいです。一緒に「はんだ」を伝えていってもらいたいです。

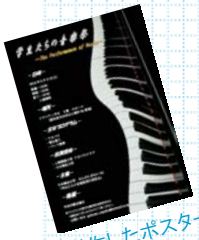
Partnership

- NPO法人半田市観光協会
- はんだまちづくりひろば
- 公益社団法人 半田青年会議所
- 半田市企画課
- 赤煉瓦倶楽部半田
- 半田商工会議所

Schedule

2012年
- 9月　「第7回はんだ山車まつり」の調査の準備
- 10月　「第7回はんだ山車まつり」の調査実
- ～12月　「 学生たちの音楽祭」イベントの企画、準備活動

2013年
- ～5月　音楽祭イベントの企画、準備活動
- 6月　音楽祭イベント実施（クラシティはんだ）
- 7月　「南吉童話ひろば」に参加（新美南吉記念館）
- 9月　半田青年会議所主催「キャンドルナイト」参加（岩滑小学校、新美南吉記念館、矢勝川周辺）
- 10月　半田商工会議所南吉プロジェクト主催「南吉童話ひろば」イベント参加
  赤煉瓦倶楽部半田、半田市主催「半田赤レンガ建物一般公開」イベント参加（新美南吉記念館、半田赤レンガ建物）
  半田商工会議所主催「ランプの灯りコンサート」イベントに参加（新美南吉記念館）



制作したポスター

はんだ山車まつりでの調査

学生たちの音楽祭の準備

南吉童話ひろばワークショップ

はんだ山車祭りで知多娘。のグッズを販売

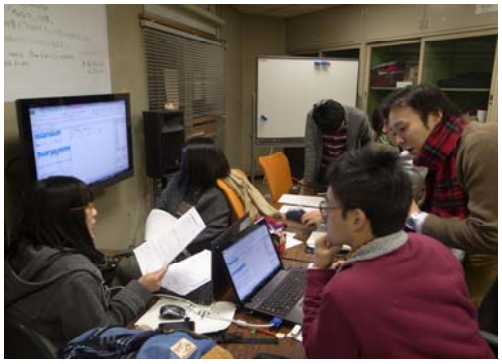
Project Member

今村孝平（経済学部3年）　江本海斗（経済学部3年）　神谷圭衣子（経済3学部年）　川口智宏（経済学部3年）　松井信都（経済学部3年）
久保美佳（経済学部3年）　後藤慎平（経済学部3年）　小林達矢（経済学部3年）　鈴木栄二（経済学部3年）　藤井清明（経済学部3年）
鈴木　結（経済学部3年）　関　友紀（経済学部3年）　田中　純（経済学部3年）　中川岳洋（経済学部3年）　細井隆行（経済学部3年）
前田智也（経済学部3年）　燈明和秀（社会福祉学部3年）

認知症って何だろう？
～認知症とは単なる物忘れのこと？～

認知症啓発イベントの様子（アピタ知立店）

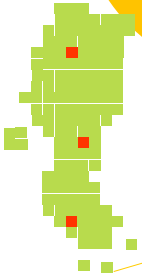
認知症買い物支援プロジェクトでは、大学での座学に加えて、介護経験者の講演会やスーパーでの啓発イベントへの参加、ヒアリング調査を通じて認知症とは何なのか、また、できそうなことは何かを探ってきました。本学で認知症を正しく理解している学生はどの程度いるのか、企業で行われている認知症理解に向けた研修はどの程度効果があるのかを明らかにするための調査研究を進めて来ました。認知症理解の促進をするアプリケーション開発にも着手しました。



プロジェクトメンバーと斉藤先生

認知症買い物支援PJ

pbl@ml.n-fukushi.ac.jp



活動エリア
全域

認知症の人と家族が暮らしやすい地域社会にむけて

家族会やユニーといった実社会の人々とともに進めているプロジェクトです。
アイディアがある人や変わったことをやりたい人はぜひ参加してみて下さい。

斎藤雅茂先生より一言

認知症の人と家族の会と、ユニー株式会社と連携して、認知症研修の効果測定票を作成しました。そこから、もっと多くの人に、認知症の理解を広めないかぎり社会問題の解決にはつながらないと考え、学生へのアンケート調査と、若年層に認知症の正しい理解を深めるためのアプリを開発しました。共通目標を達成するためには、たくさんの方々の協力を得ながら、互いに切磋琢磨することが大切だと学ぶことができました。本当に感謝しています。

プロジェクト･マネージャー　牧　沙央理

yell

NPO法人　Heart to Heart　尾之内 直美 さん

学生さんの柔らかい頭で発想して作っていただけるので、広く啓発ができます。最近は講演会などで話をするときに、アプリの画面をパワーポイントに入れて学生さんが作ってくれましたので、皆さんやってみてくださいとPRしています。これからも皆さんのますますのご活躍を期待しています。

Partnership

- 一般社団法人 認知症の人と家族の会愛知県支部
- NPO法人Heart to Heart
- ユニー株式会社
- 日本福祉大学 教育デザイン研究室

Schedule

2012年
- 8月　「わかってちょうよ認知症2012」のボランティア
- 9月　啓発イベントに参加(アピタ荒尾店)
- 11月　「認知症の人と家族の会」へのヒアリング調査

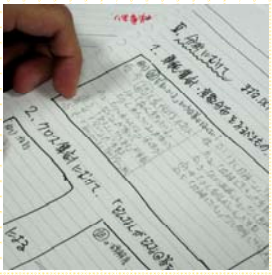
2013年
- 6月　「認知症の人と家族の会」へのヒアリング調査
- 7月　認知症学習アプリの試行会を実施(学内)
- 8月　「わかってちょうよ認知症2013」のボランティア
- 9月　啓発イベントに参加(アピタ鳴海店)アプリの試行
- 10月　学生向け認知症理解度調査の実施
- 11月　ユニー従業員研修調査の実施
- 12月　デジタルコンテンツコンテスト最優秀賞受賞

2014年
- 3月　CAC感謝祭に認知症啓発ブースを出展

学内でのアプリの試行会

デジタルコンテンツコンテスト最優秀賞受賞の様子

ケアラーズ･カフェでアプリ紹介



アンケート調査の設計図

Project Member

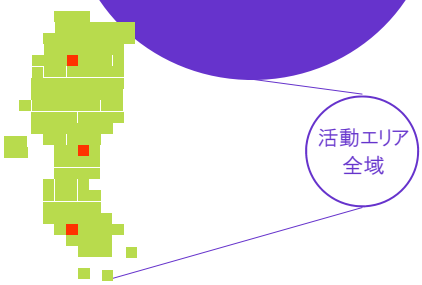
奥田　岳（社会福祉学部3年）
串間郁海(社会福祉学部3年)
宮川実子(社会福祉学部3年)
梶山のぞみ(社会福祉学部3年)
中野雄貴　(社会福祉学部3年)
下茂祐乃(経済学部3年)
原田　匠(社会福祉学部3年)
蟹　祐大(社会福祉学部3年)
牧沙央理(経済学部3年)

人のつながりによる地域活性化

避難所運営ゲーム（HUG）の様子

VC
PJ

vc@ml.n-fukushi.ac.jp



学生、住民、公共、企業の協働による「地域おこし」「村おこし」

地域を相手にすることから、真剣勝負です。大きな仕事をやりあげた時の達成感を仲間で味わいませんか。

後藤順久先生より一言

VCプロジェクトでは、いざという時に役立つ人材の育成を目指す「防災紙芝居の上演」「避難所運営ゲーム指導」、長野県辰野町の「村おこし」、常滑市で「循環型社会に向けたごみ減量」、フィリピンでの「マングローブの植樹」の4つの活動に取り組んできました。メンバーはLINEでコミュニケーションを図ります。情報共有と参加からあなたの主体的な学びが始まります。プロジェクトは、2、3年生が協同で進めていきます。

長野県辰野町で、花の植栽の様子
VCプロジェクト・ホームページ http://vcpj.jimdo.com/

ソニーマーケティング学生ボランティアファンドや福祉医療機構からの助成を受けたことで、新たな交流が生まれ、活動を発展させることができました。地域の現状を理解・分析し、どのような地域構想が考えられ、どのような協力が必要なのか、それにより得られる効果はなど、地域を育んでいくためには様々な人が協働し積極的に取り組むことが重要であると実感しました。その中で、地元や今住んでいる地域を影で支えてくれている大きな存在に気づくことができました。

プロジェクト・マネージャー　秦　悠一郎

yell

常滑市 環境経済部 ごみ減量化推進室　堂本 大輔さん

ごみ減量は、すべての市民に関わる普遍性をもった課題であり、若者、よそ者である学生と地域がコラボレーションすることで起こる「化学変化」は、大きな意義あると考えます。常滑市にあっては、大学生が関わったことにより、市民活動に新陳代謝が起こったと強く感じている。

Partnership

- はんだまちづくりひろば
- 公益社団法人 半田青年会議所
- 常滑市 ごみ減量化推進室
- 辰野町川島振興会
- NGO イカオ・アコ

Schedule

【防災紙芝居チーム】
紙芝居グループ誕生（2012年10月）
防災紙芝居上演会(2013年1月,2月,5月,8月,11月,12月)
ソニーマーケティングファンド報告会(2013年7月@東京)

【常滑市ごみ減量チーム】
530とこなめと共同で、戸別訪問の啓発活動(2013年3月)
530とこなめの定例会議に参加し、提言を行う(2013年5月)
常滑市役所にインターンシップを行い、
ごみ減量活動の「提言書」を提出(2013年8月)
常滑市職員の方と東京の先進地域視察(2013年10月)
ごみ減量化市民大会の実行委員会へ参画(2013年12～)

【辰野町チーム】
横川峡紅葉祭り参加(2012年11月)
辰野町地域構想報告(2013年2月)
辰野町花街道整備・ほたる祭り参加(2013年6月)
辰野町川島地区運動会参加(2013年9月)
花街道整備・元気ウォーキング参加(2013年10月)
横川峡紅葉祭り参加(2013年11月)
辰野町地域構想報告(2014年3月)

防災紙芝居の読み聞かせ

辰野町での町おこしに参加

フィリピン植樹ボランティア
（2013年2月7日～22日）

常滑市ごみ減量市民大会で
片岡常滑市長と記念撮影

Project Member

祖父江弘憲（経済学部3年）　森　聡（経済学部3年）　西澤晴菜（経済学部3年）　義本桃子（社会福祉学部3年）
南　若奈　（経済学部3年）　加賀山直己（社会福祉学部3年）　小柳隆志（社会福祉学部3年）　藤田穂太（社会福祉学部3年）
木下雄介　（経済学部3年）　岩田拡（社会福祉学部3年）　河合真実（社会福祉学部3年）　木本愛理（社会福祉学部3年）

気づく力、考える力、組み立てる力

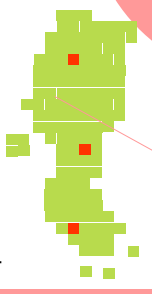
名城大学付属高等学校でワークショップを企画

地域課題の発見と対応策を作成し、その実現に向けて行動するプロジェクトです。そのために、先進事例調査、徹底的な準備、作業のスケジュール管理、チームマネジメントなどを学びながら、具体的な地域づくりの実践を行います。地域の要請、地域（知多半島地域や全国的な動き）の変化に応じてプロジェクト内容も変化します。学生の成長に合わせた地域貢献、実践的な『地域ケア』に向けて対象分野・対象団体を問わず様々な地域での展開を目指します。

南知多ビーチランドの職員とCラボで企画会議

地域ケアPJ

rcc@ml.n-fukushi.ac.jp



活動エリア
知多市

『地域を変える、地域を動かせる人材の育成』

フィールドワークを通じて学生は目覚ましい成長を見せます。学生が成長に向かう瞬間、そして地域と係わる中で学生が覚醒する瞬間を楽しんでいます。

朝日敏行先生より一言

考えるー調べるー組み立てるーまとめるー事例から学ぶーさらに考えるー実践ー修正するー次につなげる力を総合的に醸成してきました。様々なフィールドワークを通じて、地域づくりは、一つの視点からではなく、多様な視点から考えることが重要だと学びました。そして、実践の中で自分を大きく成長させることができました。チームマネジメントでは、情報共有が重要であり、イベントの企画では全員で徹底的な準備をすることが、結果出すための必要条件だと学びました。

プロジェクト･リーダー　黒川　輝

yell

株式会社名鉄インプレス南知多ビーチランド　榊原 圭志さん

学生さんが関わってくれることで、私たち職員だけでは気づけないところまで気がついてくれます。特に、日本福祉大学の学生さんは、子どもの目線や障がいを抱える子どもたちに配慮して、ワークショップの環境を改善してくれるのですごく助かっています。

Partnership

- 美浜町商工観光課
- 南知多ビーチランド
- 知多翔洋高校
- 名城大学付属高校
- フードバンクちた

Schedule

2012年
- 9月　知多市の分析（総合計画をベースとして）
- 9月　東京国際福祉機器展視察合宿
- 10月　北陸プロジェクト準備
- 11月　福井（味の祭典）視察合宿、
- 11月　金沢（スイーツ博、金沢大学訪問）視察合宿
- 12月　情報加工・発信方法を学ぶ

2013年
- 4～5月　知多翔洋高校　ワークショップ実施
- 7月　知多翔洋高校　フードデザインワークショップ実施
- 8月　三重県伊賀市成人式運営提案・関西合宿
- 12月　名城大学付属高等学校大学見学体験授業

2014年
- 1月　親子向け企画　門松づくり運営（南知多ビーチランド）

名城大学付属高等学校授業

南知多ビーチランドで海苔すき

フードバンクの取り組み

南知多ビーチランドで門松作り

Project Member

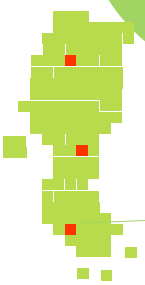
遠藤将規（経済学部3年）
津江健志（経済学部3年）
藤本賢斗（経済学部3年）
懸真菜美（社会福祉学部3年）
黒川　輝（社会福祉学部3年）
松崎杏佳（社会福祉学部3年）
南波　佑（社会福祉学部3年）
深田芽衣（社会福祉学部3年）
花房真治（経済学部3年）
宮本佳輝（社会福祉学部3年）

うごいて、あそんで健康づくり！

「はつらつ教室」（筋力向上教室）の様子

健康 PJ

exe@ml.n-fukushi.ac.jp



活動エリア
美浜町

運動やスポーツを通じた高齢者、障害者との交流

チームワークで地域のみなさんの笑顔をゲットしましょう！

松井健先生より一言

地域の高齢者や障害者が運動・スポーツを楽しみながら健康増進を図る、異世代交流を通して仲間を増やす、そんな「場づくり」「関係づくり」をサポートします。大会や教室を運営する力、人前で堂々と話す力を身につけます。今後の活動内容は、美浜町との協働による高齢者介護予防教室,「はつらつ教室」での運営・指導実践（前期8回、後期8回）、地域の知的障害児・者とのレクリエーション交流、アダプテッドスポーツの大会企画・運営等を行います。

全国大会で活躍している名古屋 の車椅子バスケットボールチーム「WORLD」の選手を招いて、大会を開催
車椅子バスケットボールチーム「WORLD」ホームページ
www.geocities.co.jp/Athlete-Rodos/8921

はじめは、健常者と障がいをもつ子どもたち一緒に活動することは難しいのではないかと思っていました。しかし、一人ひとりに配慮することで、すべての人が楽しむことが分かりました。アンケートを実施したところ、アダプテッド・スポーツに興味があったと回答した人が半数以上いたにもかかわらず、今までに参加した人はほぼいなかったことから、興味はあるのに参加できる機会がないと問題意識をもった。私たちが積極的に企画することが地域貢献になることを実感しました。

「車椅子バスケ」企画チーム

yell

NPO法人 チャレンジド　茂　大祐さん

「みんなで運動」の活動に参加させてもらっています。サーキット運動をはじめとする様々な活動を子どもたちといつも楽しみにしています。子どもたちも学生さんとかかわりを持つことができ、笑顔がいっぱいです。これからも一緒に楽しい時間をつくり、すべての子どもたちの成長に寄り添ってもらえたらありがたいです。

Partnership

- NPO法人 チャレンジド
- みはまスポーツクラブ
- 車椅子バスケットボール チームWORLD
- 辰野町川島振興会

Schedule

2012年
- 9〜12月　はつらつ教室　全8回　場所：奥田南区憩いの家
- 11月　車いすバスケットボールイベント場所：大学体育館
- 12月　みんなでうんどう〜体育館でのびのび遊ぼう〜 場所：名古屋市障害者スポーツセンター

2013年
- 6〜7月　はつらつ教室　全6回　場所：野間公民館
- 6月30日　日本福祉大学ボッチャ大会 場所：大学体育
- 10〜11月　はつらつ教室　全7回
- 10月7日　NPO法人チャレンジド　ボランティア（お菓子作り）
- 10〜12月　みんなで運動（NPO法人チャレンジドと一緒に）全六回　場所：大学体育館
- 11月22日　はつらつ教室　in辰野　場所：長野県辰野町
- 12月7日　車いすバスケ大会　場所：大学体育館

2014年
- 2月28日　はつらつ教室 in辰野　場所：長野県辰野町

ボッチャ大会での活動風景

車椅子バスケ大会担当チーム

NPO法人チャレンジドの放課後等デイサービスでお菓子作り

辰野町はつらつ教室の様子

Project Member

西尾和也（経済学部3年）　加藤千賀　（社会福祉学部3年）　坂口由里　（社会福祉学部3年）　塩崎　藍（社会福祉学部3年）
水野祐輔（経済学部3年）　菅野祐一郎（社会福祉学部3年）　筒井奈菜美（社会福祉学部3年）　藤井梨沙（社会福祉学部3年）
宮崎貴之（経済学部3年）　松田瑞希　（社会福祉学部3年）　水野里香　（社会福祉学部3年）　山本有沙（社会福祉学部3年）
宮寺紗江（経済学部3年）　百合草奈美（社会福祉学部3年）

観光農園の研究と農産物の生産・商品化・販売

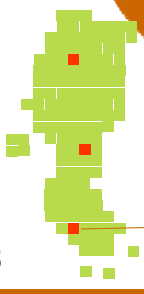
大学周辺の田んぼで地元農家の方と協力してお米を栽培

地元農家、大学生協、市役所に、田植えの仕方やパンの作り方、宣伝方法を教えてもらいながら活動を進めます。自分たちが育てた野菜や米をどうすれば買ってもらえるのか、みんなで考えていきます。活動中には農産物の品質表示や農薬・化学肥料の問題などの課題を自ら学習して解決していきます。今後は販路を広げるために、新しい協働先を見つけ、商品化につなげることで、プロジェクトを紹介していきます。

お世話になった地元農家の方を迎えた収穫祭

フード
PJ

komekome@ml.n-fukushi.ac.jp



活動エリア
美浜町

米や野菜を作るところから、商品にして販売するまでを、体験できるプロジェクトです。

育てた米には学生が話し合って名前をつけました。「皆福米(かいふくまい)」です。皆さんにも福が詰まった皆福米を食べていただきたい。

加茂浩靖先生より一言

農作物を作るだけでなく、商品化して販売するところまで携わることで、食の安心や6次産業化についても理解を深めることができました。その中で、昔ながらの農業は、互いに協力しあっているからこそ、近隣同士の結びつきを生み出しているこに気づきました。私たちは、地域に出て活動をすることで、共同で物事に取り組む地域の魅力を知ることができ、人とのつながりや地域での協働の大切さ、食が生み出す文化といった新たな学びを得ることができました。

プロジェクト･リーダー　武田　匡祐

yell

農業指導をしてくださった地元農家　久綱 進さん

今年度で4年目になります。はじめお話を頂いたときは驚きました。普段は大学で勉強している学生が、水田や畑の泥の中で作業するとは思えませんでしたが、一緒にやってみると楽しく活動できたと思います。こうした体験を将来、学生の子どもへと伝えてくれるとうれしいです。

Partnership

- 地元農家のみなさん
- 美浜町　農業水産課
- JAあいち知多
- 名古屋消費生活センター
- 徳吉醸造株式会社
- 日本福祉大学
- 生活協同組合

Schedule

2012年	
4月	畑の整備(うね作り、マルチシート張り)
5月	代かき･田植え、夏野菜･さつまいもの作付け
6月	畑の手入れ(草むしり、間引きなど)
7月	夏野菜の収穫、試食
9月	稲刈り、脱穀作業
10月	芋掘り、消費生活フェア準備(米の袋詰め)
11月	消費生活フェア参加、長野県宮田村リンゴ狩り、生協企画①さつまいもパン販売
12月	生協企画②きのこご飯販売、リンゴパン販売
2013年	
1月	収穫祭
4月	畑の整備(うね作り、マルチシート張り)
5月	代かき･田植え
6月	夏野菜栽培
7月	観光農園に関する研究･報告会
9月	稲刈り･脱穀作業
10月	芋掘り、みかん狩り、消費生活フェア準備
11月	消費生活フェア参加、長野県宮田村リンゴ狩り、生協企画①さつまいもパン販売
12月	生協企画②鮭ときのこの炊き込みご飯販売、生協企画③アップルパイ販売
1月	収穫祭

さつまいも収穫の様子

「皆福米」パッケージデザイン

大学生協の方との価格交渉

秋鮭としめじの炊き込みご飯

Project Member

大塚　翔（経済学部3年）　佐竹美由紀(社会福祉学部3年)　本田輝　（社会福祉学部3年）　酒井善弘(社会福祉学部3年)
新津幸也（経済学部3年）　上條和佳奈(社会福祉学部3年)　岩重昌樹(社会福祉学部3年)　濱口博貴(社会福祉学部3年)
坂本拓人（経済学部3年）　武田匡祐(社会福祉学部3年)　富松彩夏(社会福祉学部3年)　矢嶋佑亮(社会福祉学部3年)
河合祐太朗(経済学部3年)

巨大地震・津波への地域社会の備えを考える。

美浜町を調査し、災害時に危険な場所を明らかにする。

コミュニティ PJ

cmt@ml.n-fukushi.ac.jp

利益の追求は地域を個別化し、災害への備えは、コミュニティを形成する。

想定外の出来事に、柔軟に対応できることが、自分と周囲の人たちの安全と安心に深く関わる限り、世界中どこに住んでいても大切なことだと思います。

生江　明先生より一言

学生諸君と美浜町西海岸の町を歩きながら、南海トラフ地震の災害予想を町の地図の上に重ね、そこにどのような危険があるか、どのように生き残れるよう備えるのかを考えています。

地域住民（特に小学生や中学生たち）と小学校区単位の防災計画の作成と、それに基づいた避難訓練を、地域住民と日本福祉大学生と共同で行うことを目指しています。

春に大学で開催されている「たけのこまつり」で地域の方と一緒に炊き出しを経験

自分の安全だけでなく、みんなの安全をどうしたら図れるだろうか？災害は、日常生活の中では見え難いが、見ることができないわけではない。むしろ、災害時に自分たちの日常がよく見えてくる。それは、危機の中でこそ人間の真価が問われるからだ。私たちは、自分だけが生き残ればいいのではなく、どうしたらすべての人が助かるのか具体的に考えてきた。シミュレーションを行いながら、日常から防災意識をもって行動することは、コミュニティを形成することを学んだ。

プロジェクト･リーダー　五十嵐　雄作

yell

美浜まちラボ　中須賀　敬さん

学生は、良いところ･ダメなところを客観的に捉え、アイデアを出してくれます。まちにとって貴重であり、大切です。年齢も性別も職業も異なる住民や学生が、まちのために できること、やりたいことを一緒に実践していく！それが日常になれば素晴らしいまちになっていくと思います。

Partnership

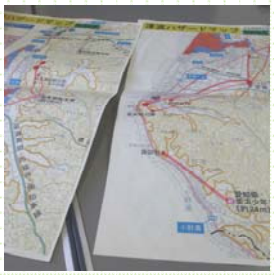
- 美浜まちラボ
- 地域開発 みちの会
- 野間小学校
- 美浜町

Schedule

2012年
- 9月　美浜町に想定される南海トラフ巨大地震を学ぶ
- 11月　講義中に巨大地震発生を想定した時の問題分析
- 12月　同上　防災ツール『目黒巻』を実践）
- 野間地区、奥田地区のハザードマップ作り

2013年
- 4月　奥田地区防災学習会
- 6月　奥田小学校防災訓練ワークショップ
- 7月　発災時の昼夜別一次避難状況の分析
- 9月　災害時の昼夜別二次避難状況の分析
- 10月　学内防災アンケートの準備
- 11月　防災アンケート実施、美浜町防災訓練参加、野間中学校防災ワークショップ参加
- 12月　防災アンケートの集計と分析
- トランシーバーによる一次避難場所をつなぐ地域ネットワーク実証実験(野間･奥田地区)
- ～3月　まとめ作業

地域住民の声を集める


防災無線ネットワークを調査

フォーラムでの研究成果報告

ポストイットで課題を整理

Project Member

五十嵐雄作(経済学部3年)　石田あかり(社会福祉学部3年)　堀口隼吾(社会福祉学部3年)　三澤龍太(社会福祉学部3年)
市野友登　(経済学部3年)　今岡　慎　(社会福祉学部3年)　岩野誠也(社会福祉学部3年)　冨家陽太(社会福祉学部3年)
松浦和樹　(経済学部3年)　林　翼　　(社会福祉学部3年)　東　優平(社会福祉学部3年)

第1回 地域研究プロジェクトフォーラム

地域を知り、人々をつなぐ。地域研究プロジェクトが目指す地域協働教育のカタチが美浜キャンパスに広がりました。2014年1月30日、第1回地域研究プロジェクトフォーラムが行われ、会場には日頃からプロジェクトを支援する行政やNPO、企業、団体などの地域関係者56名と、経済学部、社会福祉学部の学生116名が集いました。地域研究プロジェクトを主導する後藤順久経済学部教授は、「この1年半、学生は地域に貢献しながら学び、地域の多くの人の支えを得ながら、成長することができた。」と、感謝の言葉とともに、これまでの活動を振り返りました。

前半は、8つのプロジェクトから一年半の取り組みの成果が報告されました。プロジェクト・メンバーは、事業計画や調査、実行、評価に至るプロセスの中で得た気づきやチームワークの躓き、失敗事例などを交えてプレゼンテーションしました。参加者からは、「プロジェクトへの手紙」が綴られ、叱咤激励を込めたメッセージが届けられました。

後半は、ディスカッションによって活動を振り返りながら、参加した地域関係者もプロジェクトメンバーの一員として地域課題を発見し、発信するチャレンジの扉が開きました。大学と地域の持続的な関係が醸成され、共感によって新たなコミュニティが生まれる—まさに、地域を知り、人々をつなぐ場となりました。

会場では、フードプロジェクトによる「皆福米」の炊き込みご飯が振る舞われました。また、徳吉醸造株式会社と考案した“のせる醤油”「福だまり」のプレゼント抽選も行われました。取材を担当した広報プロジェクトの川崎愛弥さんと長尾巴瑠香さんは、「地域の人がこんなにも大学に来ていてビックリした。普段の大学とは違った雰囲気の中での報告会だった。」と、この日の高揚感を伝えました。

これからの活動は、地域研究プロジェクト公式Facebookページでお伝えします。みなさんの参加をお待ちしています。

Facebook　http://www.facebook.com/nfurrpj

総合司会の夏目茉林（経済学部3年）による元気なあいさつからスタート。

後藤教授は地域関係者を交えたグループワークのファシリテーター役に

フードプロジェクトから、「皆福米」でつくった炊き込みご飯が振る舞われました。

ワークショップでのふりかえりを全体の場で共有しました。

大学は地域の中へ、地域は大学の中へ

知多半島と共に歩み、知恵を分かちあう。
人々が集い、まちの未来を描ける場所。
Cラボ ― コミュニティ・ラボラトリーは、
共に学び成長する地域交流の場として
「地域に学ぶ、知の拠点」を目指しています。

C・ラボ
NIHON FUKUSHI UNIVERSITY COMMUNITY LABORATORY

Cラボ ホームページ
www.n-fukushi.ac.jp/c-lab

SPINOUT *peoples*

成果を広報する

広報チームでは、学部の行事やゼミナール、プロジェクト活動や、自分たちが日常の中で思うこと、感じたことなどを広く知ってもらうための広報活動を行っています。現在は、取材活動の成果をブログやホームページで発信しています。これまで経済学部でつくってきた「福だまり」などの販売促進活動を考えています。
広報チームは経済学部生を中心に活動していますが、今後は地域研究プロジェクトと連携した広報を展開していきます。

MAIL pr@ml.n-fukushi.ac.jp
WEB http://blog.n-fukushi.ac.jp/economics/

広報チーム

知多半島映画祭にスタッフとして潜入取材！映画「WAYA!」の古波津 陽 監督とバッチリ記念撮影しました。（監督は真ん中の方です）

高校と連携する

教職研究会では、教員を志す学生が、知多半島内の高校で年間を通して授業を行い、実践力を磨いています。実際に教壇に立つことで、授業進行の難しさや、生徒たちとふれあうことの楽しさを学ぶことができます。教師としての指導力や実践力を磨くのはもちろん、高校生と協同した地域の取り組みも行っています。

取組校：半田商業高校、東海商業高校、長野県高遠高校

MAIL eky@ml.n-fukushi.ac.jp

教職研究会

半田商業高校との高大連携授業の一幕。年間を通して「課題研究」の授業実践を行っています。

地域を持続する

モリビトの会とは、美浜町の里山保全を目的として竹林を整備する活動のことで、正式には「美浜町竹林整備事業化協議会」といいます。伐採した竹材をチップや竹炭に加工して、農業施用の事業化に取り組んでいます。毎年、地域の人に里山と竹林問題について知ってもらうために、春の「たけのこまつり」や秋の「収穫祭」を行っています。

MAIL moribito@ml.n-fukushi.ac.jp
WEB http://www.moribito.org

モリビトの会

愛知淑徳大学のサークル「エコのつぼみ」と、竹林の伐採、竹炭づくり、竹細工などの体験活動を行っています 。

STAFF *voices*

地域と学生をつなぐ

日本福祉大学には、サービスラーニングや地域研究プロジェクトなど、地域とのかかわりから社会貢献(シビック・エンゲージメント)を学ぶ場があります。ラーニング・コーディネータは、大学と地域をつないで、経験と成長の機会をつくる仕事をしています。知多半島に広がるキャンパスでの出会いは、みなさんのゆるぎない確信となるでしょう。（石黒・中野）

経済学部の学生が「徳吉醸造」の見学に訪れた際に、大豆の絞り粕にチロシン（アミノ酸の一種）などの有用な栄養が含まれることに注目したことから「福だまり」の開発が始まりました。その後も、打ち合わせや試作を何度も繰り返して、味のバランスを工夫しながら、現在の福だまりができました。現在は、日本福祉大学の食堂や生協売店での販売を行っています。また、テレビや新聞など、各種メディアでも取り上げられました。現在は本格的な販売に向けて販路拡大や新たな商品開発を行っています。

大正12年創業の徳吉醸造

「福だまり」のできるまで

味噌・たまりの製造過程でできる大豆の絞り粕を原材料として再度加工し、味を調え、食べやすく仕上げています。

杉樽

重石と塩

手作業による樽の管理

漉すための準備

樽から出して混ぜる

絞り粕